

「患者中心の医療」と当院の役割



常陸大宮済生会病院
内科医員 田淵 司

こんにちは。今回は「患者中心の医療」についてお話しします。病院、診療所、在宅など様々な場で医療は提供される時代となりました。高齢化も進んでいます。その中で、医療の在り方も複雑多様になっています。「患者中心の医療」は、より良い医療を提供するための一つの方法です。「患者中心の医療」は、以下の4つの要素で構成されます。

1. 健康、疾患、病いの経験を探る
2. 全人的に理解する
3. 共通の理解基盤を見出す
4. 患者－医師関係を強化する

では、具体的に見ていきましょう。

医師は、1. 患者が置かれている社会的状況や、患者自身がどのように解釈しているかを探ります。2. それらを統合的に考え、患者を全人的に理解することを試みます。3. 共通の理解基盤として、治療の必要性や治療の目的、目標を見出していきます。4. 外来通院や入院中の患者、家族との対話を通じて、患者－医師関係、すなわち、お互いを尊重する姿勢や信頼関係を強化していきます。以上が「患者中心の医療」の考え方です。

ここからは、当院で「患者中心の医療」が実践されてきたことの説明をします。私が当院に赴任して良いなと思ったのは、引き継いだ患者さんのカルテに生活社会歴（飲酒、喫煙、趣味、家族構成、職業、食生活、運動習慣、介護サービス利用状況など）が充実していたことです。これは前任の医師達が、目の前の医学的問題（血圧が高い、胃が痛い、等）の解決だけでなく、患者さんの内面や価値観まで把握を試み、生活していく上での根本的な解決を図ろうとしてきたことの現れであると感じています。

救急指定病院でありながら、地域に根ざした基幹病院として、周辺住民の方々を支えてきた歴史、取り組みが伺えました。同時に、皆さんの今後の健康を担っていく責任を実感することもあります。日々の診療の中で、医学的なゴールの追求だけでなく、一人一人の患者さんにとって本当に良い医療とは何かを自問自答しています。「この病院に出会えて良かったな」と思っただけであれば幸いです。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

※救急受け入れの人数を
月別に表しています。
(休日・時間外を含む)

常陸大宮済生会病院 救急患者受入状況

